

重要項目 14 生涯学習の支援				担当課名																										
施策目標		(1) 自ら学ぶ環境づくり		地域教育課																										
主要事業		① 各種サークル団体等の活動発表の場の提供、ITの活用と普及																												
年度の目標	市民の自主活動の支援や活動発表の場として、教育文化センターや市民総合センターを提供する。市の文化・芸術の振興に尽力している市文化協会の事務局としての情報提供や活動支援を行う。市民がインターネット、電子メールの交換、簡単なワード作成など技能を習得できるようパソコン基礎講習会及び年賀状講習会を開催する。																													
計画の概要	地域活動拠点施設として市民の自主活動への情報や場所の提供を行うとともに、各種団体への運営や立ち上げのアドバイス等の支援を行う。また、各種団体の成果発表の場を提供し自主活動を支援する。さらにIT化に対応できる環境づくりを醸成するため、市民の情報格差を是正する。																													
活動の実績	<p>IT講習会(注1)は、パソコン基礎講習会及び年賀状講習会を実施し、インターネット等の普及に努めた。</p> <p>□IT講習会開催実績</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2">年度</th> <th colspan="2">パソコン基礎講習会</th> <th colspan="2">年賀状講習会</th> </tr> <tr> <th>回数</th> <th>参加人数</th> <th>回数</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26</td> <td>8</td> <td>24</td> <td>2</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>8</td> <td>28</td> <td>2</td> <td>11</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>8</td> <td>22</td> <td>2</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table> <p>(注1) IT講習会とは、ITボランティアが講師となり、パソコン操作等ができない市民等に対してパソコンの基礎、インターネット利用の講習を行っている。</p> <p>*以下の予算額・決算額は、IT活用普及事務のみである。</p>						年度	パソコン基礎講習会		年賀状講習会		回数	参加人数	回数	参加人数	26	8	24	2	19	27	8	28	2	11	28	8	22	2	13
年度	パソコン基礎講習会		年賀状講習会																											
	回数	参加人数	回数	参加人数																										
26	8	24	2	19																										
27	8	28	2	11																										
28	8	22	2	13																										
実績の評価		評価の内容																												
A		上記の事業が滞りなく完了したため、Aと評価する。																												
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳																											
			国府支出金	地方債	その他	一般財源																								
26	289 千円	183 千円	0 千円	0 千円	0 千円	283 千円																								
27	195 千円	195 千円	0 千円	0 千円	0 千円	195 千円																								
28	195 千円	195 千円	0 千円	0 千円	0 千円	195 千円																								
現状の課題																														
IT講習会は、受講者が減少傾向にある。要因として、スマートフォンの普及等容易に情報が入手できるようになったことも考えられるが、日程や講習内容の組み替え等を工夫する必要がある。																														
今後の取り組み																														
プログラムを再考するなどし、IT講習会を開催する。																														

重要項目 14 生涯学習の支援				担当課名																										
施策目標		(1) 自ら学ぶ環境づくり		地域教育課																										
主要事業		② 第2次識字基本計画の策定																												
年度の目標	第2次四條畷市識字基本計画を策定する。 四條畷市識字推進連絡会(注1)及び四條畷市庁内識字連絡会(注2)の開催、四條畷市にほんご教室(注3)の運営、ボランティア運営の識字教室(注4)へ支援を行う。 北河内7市で持ち回りで開催している北河内識字・日本語交流会へ参加する。																													
	(注1)本市における識字・日本語教室の活動を円滑かつ効果的に推進するため市内で活動する識字関係団体間の連絡調整及び情報交換等を行うことを目的として設置 (注2)本市の識字施策を推進するため関係部署の職員で構成された連絡会 (注3)地域に暮らす外国人等を対象とした日本語教室 (注4)知的、身体的に障がい有する人を対象とした「みんなきてや学級」がある																													
計画の概要	四條畷市識字推進指針及び四條畷市識字基本計画に基づき、識字施策を推進する。 四條畷市識字推進連絡会を開催し、識字・日本語教室と公民館と地域教育課が連携し、各教室の円滑な運営及び支援を行う。 四條畷市庁内識字連絡会にて、四條畷市識字基本計画の進捗管理や公用文書等のふりがな表記の基準を策定し、関係部署に発信し啓発を行う。 北河内識字・日本語交流会は、担当市と連絡調整し、有益な情報交換の機会とする。 障がい者の識字については、アンケート調査し、実態把握に努める。																													
	四條畷市識字基本計画が期間満了となるので、四條畷市識字施策推進状況等意見聴取会(注5)、市識字推進連絡会、市庁内識字推進連絡会で見直しや聴取を行い、第2次四條畷市識字基本計画を策定した。 四條畷市庁内識字連絡会にて、四條畷市識字基本計画の進捗管理及び、公用文書等のふりがな表記の基準に基づき、ふりがな表記の取組みについてを関係部署に発信し、啓発を行った。 北河内識字・日本語交流会については、枚方市が担当となり、日本語教室の関係者が日本文化とのふれあいをテーマに交流会を行った。全体会では各教室の紹介、分科会では識字に関する各テーマに沿った体験学習を実施し、参加者の交流を深めるとともに、情報交換を行った。参加者275人(内 市内参加者25人)																													
活動の実績	(注5)四條畷市識字基本計画の進捗状況等について、市民等から意見を聴取し施策の参考とするために設置 <input type="checkbox"/> 開催実績																													
			<table border="1"> <thead> <tr> <th>開催回数/年度</th> <th>26</th> <th>27</th> <th>28</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>四條畷市庁内識字推進連絡会</td> <td>4</td> <td>1</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>四條畷市識字推進連絡会</td> <td>2</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>四條畷市にほんご教室</td> <td>97</td> <td>98</td> <td>97</td> </tr> <tr> <td>みんなきてや学級</td> <td>45</td> <td>26</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td>識字基本計画進捗状況等意見聴取会</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>					開催回数/年度	26	27	28	四條畷市庁内識字推進連絡会	4	1	2	四條畷市識字推進連絡会	2	2	2	四條畷市にほんご教室	97	98	97	みんなきてや学級	45	26	17	識字基本計画進捗状況等意見聴取会	1	2
開催回数/年度	26	27	28																											
四條畷市庁内識字推進連絡会	4	1	2																											
四條畷市識字推進連絡会	2	2	2																											
四條畷市にほんご教室	97	98	97																											
みんなきてや学級	45	26	17																											
識字基本計画進捗状況等意見聴取会	1	2	3																											
実績の評価		評価の内容																												
A		上記の事業が滞りなく完了したため、Aと評価する。																												
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳																											
			国府支出金	地方債	その他	一般財源																								
26	143 千円	80 千円	0 千円	0 千円	0 千円	80 千円																								
27	193 千円	107 千円	0 千円	0 千円	0 千円	107 千円																								
28	190 千円	131 千円	0 千円	0 千円	0 千円	131 千円																								

現状の課題

平成28年度中に計画の見直しを行った第2次四條畷市識字基本計画について、関係各課へ周知するとともに、取組みを推進する。また、公用文書等のふりがな表記の基準に基づき、職員一人ひとりがふりがな表記の意図を理解し取組みを進めるため、関係部署に啓発を行っていく。

今後の取り組み

四條畷市識字基本計画の進捗状況等の確認する。また、28年度に改定した第2次識字基本計画に基づく具体的事業のとりまとめを行い事業を推進する。さらに、公用文書等のふりがな表記の各課の実施状況を把握し、取組みを進める。

重要項目 14 生涯学習の支援				担当課名		
施策目標		(2) 生涯スポーツの振興		地域教育課		
主要事業		① 四條畷市マラソン大会等の実施				
年度の目標	NPO法人四條畷市体育協会、四條畷市体育振興協議会、四條畷市スポーツ少年団本部などのスポーツ団体と協働し、市民の体力づくりや地域が主体とするスポーツ振興の仕組みづくりとして、四條畷市の特色を生かした事業を実施することにより、市民のスポーツに対する興味を高めるように努める。また、スポーツ教室や市民総合体育大会を実施することにより、市民のスポーツへの関心を高め、スポーツの振興に寄与する。					
計画の概要	スポーツ教室は、四條畷市の特色を生かした事業と、トップアスリートによる指導や講演会を実施する。市民総合体育大会は、広く市民にスポーツを振興し、普及発展及び市民の健康増進の親睦を深める。特に、北河内区総合体育大会及び北河内地区駅伝競走大会は、北河内地区住民のスポーツを振興し、普及発展とアマチュア精神の高揚を図り、7市間の親睦に寄与する。					
活動の実績	<p>スポーツ教室は、昨年3月にオープンした総合公園人工芝運動場でラグビー教室を開催し、日本代表で本市出身の現神戸製鋼コベルコスティーラーズの山下裕史氏、同所属の佐藤貴志氏、大橋由和氏を迎えて実技指導を実施した。小学校3年生12人、4年生5人、5年生16人、6年生8人の計41人の市内小学生が参加した。</p> <p>市民総合体育大会は市内体育施設等を利用し、5月から12月にかけて15種目を実施した。</p> <p>北河内地区総合体育大会は、6月から7月にかけて開催され、9種類24種目中22種目の参加があった。また、北河内地区駅伝競走大会は2月に実施し、ジュニア男子、ジュニア女子とも2チーム参加した。</p> <p>生駒市との交流事業、スポーツ少年団交流サッカー大会を12月に総合公園人工芝運動場で実施した。四條畷市で50名、生駒市で31名が参加した。</p>					
実績の評価		評価の内容				
A		上記の事業が滞りなく完了したため、Aと評価する。				
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳			
			国府支出金	地方債	その他	一般財源
26	700 千円	700 千円	0 千円	0 千円	0 千円	700 千円
27	1,000 千円	1,000 千円	0 千円	0 千円	0 千円	1,000 千円
28	900 千円	900 千円	0 千円	0 千円	0 千円	900 千円
現状の課題						
<p>市民が定期的実施できる機会の提供と、ニーズに沿った事業を実施することが必要である。</p> <p>新たにスポーツを始めるきっかけづくりの場をもうけるために、各スポーツ団体との協力は必要だが、市民自ら身近にあるスポーツ資源を活用し、継続的にスポーツを気軽に親しむことのできる環境づくりが必要である。</p>						
今後の取り組み						
<p>四條畷市の環境を活かしたスポーツイベントを実施し、スポーツに対する興味や意識の向上につなげるとともに、各種スポーツ団体と連携・協力のもと地域に根ざしたスポーツ振興の体制づくりに努める。また、総合公園と生駒山麓公園が隣接しているので、生駒市との連携事業を進めていく。</p>						

重要項目 14 生涯学習の支援				担当課名																						
施策目標		(3) 文化・芸術の振興		地域教育課																						
主要事業		① 市民文化祭の開催等																								
年度の目標	四條畷市文化芸術振興計画が期間満了となるため、計画の改定を行う。四條畷市文化芸術振興計画進捗状況等意見聴取会を開催し、意見聴取や市民意見公募の改定を行う。また、市民文化祭を開催する。																									
計画の概要	四條畷市文化芸術振興計画に基づく取組みを推進する。また、伝統文化の継承や市民が文化活動を通じてより豊かな人格形成ができるよう文化活動を支援することを目的として市民文化祭を開催する。さらに、文化協会主催のサマーフェスティバルは、市民が伝統文化や文化活動を体験できるよう補助する。																									
活動の実績	<p>四條畷市文化芸術振興計画が期間満了に伴い、進捗状況の確認を行うため、四條畷市文化芸術振興計画進捗状況等意見聴取会を開催し計画を見直したことで、第2次四條畷市文化芸術振興計画を策定した。地域文化の向上や創作活動を普及促進するため、市民の文化芸術活動を発表する場として市民文化祭を開催した。ゲストとしてカシュカシュによる打楽器パフォーマンスを行った。舞台出演団体数35団体、展示数247点、模擬・バザー11団体、延べ2,000人が参加した。</p> <p>文化協会主催のサマーフェスティバルは、市民が伝統文化や文化活動を体験できるように、活動を支援するため補助金を交付した。</p> <p>文化人の発掘のための要綱については検討したが作成には至らなかったが、また、文化人の発掘として、文化団体等へ聴き取りを行い、新たな文化人が把握できただけでなく、一部の方については協力体制を確認できた。市内在住の文化人の核となる人材については、文化協会だよりでその活躍を取り上げ宣伝活動を行ったうえ、市民文化祭や議場コンサート等で発表の場を提供し、それぞれ市民に周知した。</p> <p>考古編については各執筆者の原稿の編集作業を行い、出版社への入稿を経て、編集・校正・印刷作業を進め、平成28年3月31日に刊行した。民俗編については提出された四半期ごとの調査報告書を取りまとめ、進捗状況の管理を行った。また、市史編さん委員会においては、考古編完成の報告を行なうとともに、民俗編の内容等について検討を行った。</p> <p>□市民文化祭実績</p> <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>舞台出演団体</th> <th>展示出展数</th> <th>模擬・バザー団体</th> <th>参加者数 (延べ人数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>26</td> <td>34</td> <td>239</td> <td>11</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>27</td> <td>34</td> <td>237</td> <td>12</td> <td>2,000</td> </tr> <tr> <td>28</td> <td>35</td> <td>247</td> <td>11</td> <td>2,000</td> </tr> </tbody> </table>						年度	舞台出演団体	展示出展数	模擬・バザー団体	参加者数 (延べ人数)	26	34	239	11	2,000	27	34	237	12	2,000	28	35	247	11	2,000
年度	舞台出演団体	展示出展数	模擬・バザー団体	参加者数 (延べ人数)																						
26	34	239	11	2,000																						
27	34	237	12	2,000																						
28	35	247	11	2,000																						
実績の評価		評価の内容																								
A		上記の事業が滞りなく完了したため、Aと評価する。																								
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳																							
			国府支出金	地方債	その他	一般財源																				
26	515 千円	515 千円	0 千円	0 千円	0 千円	515 千円																				
27	515 千円	515 千円	0 千円	0 千円	0 千円	515 千円																				
28	515 千円	515 千円	0 千円	0 千円	0 千円	515 千円																				
現状の課題																										
市民文化祭については、内容のマンネリ化を解消するため、文化協会と協力してイベントのあり方を検討する必要がある、優れた文化・芸術の鑑賞機会の拡大を図る。																										
今後の取り組み																										
第2次四條畷市文化芸術振興計画に基づく進捗管理を行う。特に、市民文化祭やサマーフェスティバルの開催等の伝統文化の継承や、市民の文化活動の活性化に向けた取組みを推進する。																										

重要項目 14 生涯学習の支援		担当課名
施策目標	(4) 社会教育関係団体への支援、市民へ社会教育資源の情報提供	地域教育課
主要事業	① 社会教育関係団体の自立運営に向けた支援、情報提供	
年度の目標	<p>市民団体である各種社会教育団体の自立支援のための情報提供、特に、市の文化・芸術の振興に尽力している市文化協会からの情報提供や活動支援を行う。また、生涯学習ボランティア制度(注1)を市民にアピールし、登録者の活動の幅を広げるとともに、様々な知識・技能を持つ人材の発掘及び登録の呼びかけを行い、生涯学習・地域活動の推進に努める。</p> <p>(注1)この制度は、生涯にわたる「自分づくり」「魅力あるまちづくり」の視点から生涯学習を推進していくために個人でお持ちの知識や技能・資格や経験・趣味などの貴重な「力」をいつでも、どこでも、誰でも、自由に学び教え、互いに支え合う、生涯学習ボランティアとして生かしていただきために、すでに各分野でボランティアとして活動している人、また機会があればぜひ活動したいと思っている皆さんに幅広く登録を呼びかけ、さまざまな理由でボランティアを必要としている人に紹介します。</p>	
計画の概要	<p>各種社会教育団体に自立支援に向けた支援や情報提供を行う。また、生涯学習ボランティア制度を活用し、より多くの市民の豊かな経験、知識、趣味、技術や技能などを、それを必要とする個人や団体、地域に活かしていくことで、生きがいある魅力あるまちづくりに繋げていくことに努める。</p>	
活動の実績	<p>生涯学習ボランティアは、新規登録が1件、依頼が10件あり、うち7件の依頼を登録者に繋げることができた。利用された方からは、玉すだれやマジック、ペン習字や工作など、ボランティアの方の丁寧な対応で楽しく貴重な時間が過ごせたとの喜びの声が届いた。</p>	
実績の評価	評価の内容	
A	上記の事業が滞りなく完了したため、Aと評価する。	
現状の課題		
<p>生涯学習ボランティアは、登録者の活用方法をさらに検討し、活躍の幅を広げることや市民への情報発信の方策が課題である。</p>		
今後の取り組み		
<p>生涯学習ボランティアは、地域の様々な知識や技能等を持つ人、団体を発掘するとともに、活用の充実に努め、生涯学習・地域活動の推進を図る。</p>		

重要項目 14 生涯学習の支援				担当課名																																																							
施策目標		(5) 人材の育成		地域教育課																																																							
主要事業		① 体育文化奨励賞、歴史散策「おおさかふみんネット」の実施																																																									
年度の目標	<p>体育文化奨励賞を実施することにより、市民の文化・スポーツへの関心を高め、文化・スポーツの振興に寄与する。また、大阪府・市町村生涯学習ネットワークの事業として「広域講座おおさかふみんネット 聞く・見る・歩く 北河内パート17」を実施する。</p>																																																										
計画の概要	<p>体育文化奨励賞は、体育及び文化活動において、特に功績が顕著な者又は団体に対し奨励賞を授与し表彰することにより、体育及び文化活動の振興、発展を促進する。</p> <p>体育奨励賞は、国又は地方公共団体が主催、共催又は後援する競技会において、全国規模で6位、近畿規模で3位、大阪府規模で1位、国民体育大会では8位になった者又は団体に、文化奨励賞は、国又は地方公共団体が主催、共催又は後援する文化活動において、全国規模で入選又は入選と同等の成績、近畿規模及び大阪府規模で入賞又は入賞と同等の成績をあげた者又は団体に授与する。また、長年にわたり本市の体育振興、文化の発展に寄与し、特に功績が顕著であり、教育委員会が認めた者及び団体にも授与する。</p> <p>おおさかふみんネットの広域講座について、例年に引き続き開催担当市として参加し、市内の貴重な歴史や文化財について市民及び市外からの参加者へ周知啓発を行う。</p>																																																										
活動の実績	<p>体育文化奨励賞は、12月に体育及び文化の功績をたたえ、体育奨励賞(個人13人、1団体)、文化奨励賞(個人4人)の表彰を行った。おおさかふみんネットの広域講座では、大阪府内を中心に延べ193名の参加者があり、市内を散策した。</p> <p style="text-align: center;">体育文化奨励賞 表彰実績</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th rowspan="3"></th> <th colspan="4">体育奨励賞</th> <th colspan="4">文化奨励賞</th> </tr> <tr> <th colspan="2">個人</th> <th colspan="2">団体</th> <th colspan="2">個人</th> <th colspan="2">団体</th> </tr> <tr> <th>成績</th> <th>功績</th> <th>成績</th> <th>功績</th> <th>成績</th> <th>功績</th> <th>成績</th> <th>功績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成26年度</td> <td>6</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>9</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>11</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </tbody> </table>								体育奨励賞				文化奨励賞				個人		団体		個人		団体		成績	功績	成績	功績	成績	功績	成績	功績	平成26年度	6	4	0	0	0	3	0	0	平成27年度	9	2	1	0	3	2	0	1	平成28年度	11	2	1	0	0	4	0	0
	体育奨励賞				文化奨励賞																																																						
	個人		団体		個人		団体																																																				
	成績	功績	成績	功績	成績	功績	成績	功績																																																			
平成26年度	6	4	0	0	0	3	0	0																																																			
平成27年度	9	2	1	0	3	2	0	1																																																			
平成28年度	11	2	1	0	0	4	0	0																																																			
実績の評価		評価の内容																																																									
A		上記の事業が滞りなく完了したため、Aと評価する。																																																									
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳																																																								
			国府支出金	地方債	その他	一般財源																																																					
26	53 千円	10 千円	0 千円	0 千円	0 千円	10 千円																																																					
27	53 千円	14 千円	0 千円	0 千円	0 千円	14 千円																																																					
28	53 千円	15 千円	0 千円	0 千円	0 千円	15 千円																																																					
現状の課題																																																											
<p>受賞された方は、励みになっている賞である。しかし、大阪府大会、近畿大会を勝ち進み全国1位と大阪府大会1位だが、その上位大会で負けたとしても同じ賞であり、また、大阪府代表、近畿地区代表選抜での出場といった規定が無いので、競技人口が少ない種目で、いきなり近畿大会、全国大会から始まってしまいう大会でも基準にあえば賞がもらえてしまう状況である。また、おおさかふみんネット広域講座の参加者数は頭打ちになっており、新たな講座内容も含め検討が必要である。</p>																																																											
今後の取り組み																																																											
<p>市民の文化スポーツへの関心、受賞意欲につながる要綱等の見直しの検討を進める。おおさかふみんネット広域講座は引き続き開催担当市として参加し、さらに市外の方へ四條畷の歴史や文化財を周知するため本事業を活用するとともに、北河内ブロックとして、大阪府府民文化部都市魅力創造局文化・スポーツ課へも府としての取組み強化を提言する。</p>																																																											

重要項目 14 生涯学習の支援			担当課																															
施策目標	(6)	市民主体の教育文化活動の場、機会を創造	公民館																															
主要事業	①	公民館フェスティバル																																
年度の目標	公民館を利用するサークルの活動成果を発表する場を設け、気軽に文化芸術に触れ、地域住民が交流することにより、文化芸術活動の活性化や活動意欲を醸成し、今後の公民館活動を活性化する。																																	
計画の概要	市立公民館を利用しているサークルが主体となり、舞台の部、展示の部、模擬・バザーの部の3部門で構成される公民館フェスティバルを開催し、日頃の活動成果を発表する。公民館を利用しているサークルが日ごろの成果を発表することで、会員の活動意欲の向上や公民館の活性化、また、地域住民が参加することで、地域交流を図る。																																	
活動の実績	<p>平成28年5月14・15日の2日間、市民総合センター(図書館を除く)全館を使用し、第33回公民館フェスティバルを公民館フェスティバル実行委員会主催のもと、サークル団体等(42団体)、福祉団体(5団体)、友好都市の紀北町(3店舗)の協力を得ながら展示の部、舞台の部、模擬バザーの部に分かれ開催した。</p> <p>公民館フェスティバル 来場者数 延べ3,600人</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>開催日</th> <th>友好都市</th> <th>福祉団体</th> <th>サークル団体</th> <th>参加団体</th> <th>来場者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第31回</td> <td>H26.5.17・18</td> <td>3店舗</td> <td>5団体</td> <td>48団体</td> <td>56団体</td> <td>延3,600人</td> </tr> <tr> <td>第32回</td> <td>H27.5.16・17</td> <td>3店舗</td> <td>6団体</td> <td>48団体</td> <td>57団体</td> <td>延3,600人</td> </tr> <tr> <td>第33回</td> <td>H28.5.14・15</td> <td>3店舗</td> <td>5団体</td> <td>42団体</td> <td>50団体</td> <td>延3,600人</td> </tr> </tbody> </table>							開催日	友好都市	福祉団体	サークル団体	参加団体	来場者数	第31回	H26.5.17・18	3店舗	5団体	48団体	56団体	延3,600人	第32回	H27.5.16・17	3店舗	6団体	48団体	57団体	延3,600人	第33回	H28.5.14・15	3店舗	5団体	42団体	50団体	延3,600人
	開催日	友好都市	福祉団体	サークル団体	参加団体	来場者数																												
第31回	H26.5.17・18	3店舗	5団体	48団体	56団体	延3,600人																												
第32回	H27.5.16・17	3店舗	6団体	48団体	57団体	延3,600人																												
第33回	H28.5.14・15	3店舗	5団体	42団体	50団体	延3,600人																												
実績の評価		評価の内容																																
A		公民館フェスティバルを予定どおり開催することができ、市民交流により公民館が活性化された。計画どおりに実施したとし、評価をAとする。																																
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳																															
			国府支出金	地方債	その他	一般財源																												
26	83千円	83千円	0千円	0千円	0千円	83千円																												
27	83千円	83千円	0千円	0千円	0千円	83千円																												
28	83千円	83千円	0千円	0千円	0千円	83千円																												
現状の課題																																		
公民館を利用しているサークルの団体数が高齢化等の影響で減少傾向にあるため、支援等を行いフェスティバルの継続する必要がある。																																		
今後の取り組み																																		
今後も地域活動の拠点として、地域における様々なサークル活動の学習の成果を発表する機会を提供することにより、地域社会の活性化に寄与し、また、学習活動や地域活動を通じて、地域の人々の交流やつながりを深めていくよう取り組む。さらに、市内の他施設で活動しているサークルにゲスト出演を依頼するなど、さまざまな企画を実施し、公民館フェスティバルを活性化させる。																																		

重要項目 14 生涯学習の支援		担当課
施策目標	(7) 地域の魅力と活力を生み出す	公民館
主要事業	① オープンサークル	
年度の目標	サークル活動は高齢化が進み指導者や会員が減少しているため、公民館には自主的な学習グループ・サークル活動等の支援が求められていることから、サークル活動等を積極的に広く地域へ紹介し、地域住民との交流や支援を通じて、サークル活動の活性化と地域の活性化をめざす。	
計画の概要	公民館利用サークル連絡会が実行委員会形式で主催するイベントとして、気軽に地域の方に各種サークルの紹介や体験をしていただくオープンサークルを開催する。地域の人々に様々なサークル活動を積極的に紹介し、また体験の機会を増やすことによって、サークルの活性化と地域の活性化を図る。 主には、公民館内施設・設備を開放し、各サークル紹介の他、会員などによる実演、作品展示、個別質問の受付け、実施体験などを行う。	
活動の実績	第3回オープンサークルを公民館利用サークル連絡会主催のもと、平成28年10月12日から23日までの12日間にわたり、様々なサークル活動団体(16団体)の参加を得て開催した。今回も各サークルが実際に活動を行っている曜日と時間帯に合わせて実施し、その結果、新たに会員に加入されたサークルもあった。	
実績の評価	評価の内容	
B	予定どおりオープンサークルを開催し、概ねサークル活動や地域の活性化が図れたが、さらなる啓発が必要と考えるため、評価はBとする。	
現状の課題		
オープンサークルの開催に伴い、新たにサークルへ入会した方がおられたが、参加者数は多くなかったため、開催方法等のさらなる工夫が必要である。		
今後の取り組み		
オープンサークルの開催により、新たな会員が増えたことから、引き続きオープンサークルを開催するとともに、過去の参加状況を分析し、一人でも多く参加できるよう取り組む。また、一部体験ができなかったサークルがあったため、今後はすべてのサークルが体験ができるように努める。		

重要項目 14 生涯学習の支援		担当課																	
施策目標	(8) 識字施策の推進	公民館																	
主要事業	① にほんご教室																		
年度の目標	地域で暮らす外国人や様々な理由で日本語の読み書きができずに日常生活に支障をきたしている人を対象に学習支援を行うとともに、日本文化の学習、学習者同士の情報交換、市民交流などを支援する。																		
計画の概要	毎週、木曜日及び金曜日に教室を開き、ボランティア講師と学習者のマンツーマン学習により個々に適した学習方法で日本語を習得する。また、教室外の学習においても、日本文化の体験や地域市民と交流する。																		
活動の実績	<p>毎週、木曜日及び金曜日に、教室で日本語学習及び教室外で体験学習等を行った。教室では、13ヶ国81人、延べ934人の外国人等が学習を行った。公民館フェスティバルの外国人の主張において、9人の学習者が自分の国のことや日本に来て感じたことなど、日頃の勉強の成果を試すために学習成果を日本語で発表した。</p> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>国数</th> <th>学習者数</th> <th>学習者延人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H26</td> <td>16ヶ国</td> <td>84人</td> <td>947人</td> </tr> <tr> <td>H27</td> <td>18ヶ国</td> <td>101人</td> <td>908人</td> </tr> <tr> <td>H28</td> <td>13ヶ国</td> <td>81人</td> <td>934人</td> </tr> </tbody> </table> <p>にほんご教室 ・ 毎週木曜日 10:30～12:00 ・ 毎週金曜日 18:30～20:00 ※年末年始、休館日等は除く</p> <p>また、教室外学習は、大阪くらしの今昔館や大衆演劇の見学により日本文化の学習や、忍ヶ丘まつりの盆踊りに参加し地域と交流した。</p>			年度	国数	学習者数	学習者延人数	H26	16ヶ国	84人	947人	H27	18ヶ国	101人	908人	H28	13ヶ国	81人	934人
年度	国数	学習者数	学習者延人数																
H26	16ヶ国	84人	947人																
H27	18ヶ国	101人	908人																
H28	13ヶ国	81人	934人																
実績の評価		評価の内容																	
B		学習者の日本語の習得や日本文化の体験、地域市民とは交流できたが、新たな講師の確保が十分でなかったため、評価をBとする。																	
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳																
			国府支出金 地方債 その他 一般財源																
26	585 千円	527 千円	0 千円 0 千円 0 千円 527 千円																
27	585 千円	578 千円	0 千円 0 千円 0 千円 578 千円																
28	585 千円	391 千円	0 千円 0 千円 0 千円 391 千円																
現状の課題																			
現在、ボランティア講師により教室を運営しているが、学習者の増加に伴い講師の数が不足してきており、マンツーマンの学習が難しくなっている。																			
今後の取り組み																			
にほんご教室は、外国人等の駆け込み寺となっているため、よみ・かき・ことばなど、日本語ができずに困っている外国人等の方が、いつでも来れるよう環境を整えておくとともに、ボランティア講師の募集を積極的に行い、講師の確保に努めていく。																			

重要項目		15 ひとつづくりは、まちづくりプロジェクト				担当課名	
施策目標		(1) 教育環境整備計画の推進				教育環境整備室	
主要事業		① 教育環境整備計画の推進					
年度の目標	平成30年4月から実施する中学校の再編に向け、引き続き、統合準備委員会による統合準備を進める。中学校の施設整備は、設計・施工一括発注方式(注1)により募集している事業者の選定及び契約手続きを進める。契約締結後は、施設整備の実現に向け、関係機関と調整を行う。また、小学校の施設整備は、整備内容、発注方式、スケジュール等を検討する。 (注1)設計・施工一括発注方式:公共施設等の設計・建設を一体の業務として発注する方式						
計画の概要	昨年度に引き続き、統合準備委員会を開催し、校区再編による生徒や保護者の転籍に対する不安や負担の軽減策等の課題の詳細な検討を行う。 四條畷中学校・四條畷西中学校整備の事業者を選定するにあたり、庁内で選定委員会を開催し、公募を行う。事業者が決定すれば、発注を行う。また、平成32年4月から小学校再編整備を行うにあたり、具体的な内容を検討するため、全庁的な合意形成を行う。						
活動の実績	昨年度から引き続き、統合準備委員会を開催し、今年度は学校間どうして、校区再編による生徒や保護者の転籍に対する不安・負担の軽減策を検討した。 学校施設整備について、設計・施工一括発注方式により事業者の募集・選定を行い、事業者と契約を締結、速やかに工事に着手した。学校施設整備については、KyouKanヘッドラインニュース(注2)11号を発刊し、ホームページの掲載や学校への掲示、公共施設の窓口等に設置し、市内公立学校園の保護者、教職員に配付を行い、広く情報を発信した。また、教育環境整備についてのQ&Aをホームページに掲載、校区再編におけるお知らせを公私立幼稚園・保育園所及び保護者に配付し、市民に情報を発信した。 さらに、まちづくり長期計画の見直しに伴い、教育環境整備計画の一部を修正することから、なわて出前講座や市長・教育長と保護者との意見交換会を開催し、今後の四條畷市や学校のあり方などについて、意見交換や質疑応答を行った。 (注2)KyouKanヘッドラインニュースとは、市民の皆様へ「学校」を取り巻く取組みや課題などを、わかりやすくお知らせするために創刊したもの。なお、KyouKanとは、教育環境の「教」「環」と、みんなで「共感する」からネーミングしました。						
実績の評価		評価の内容					
A		本年1月に新市長が就任され、まちづくり長期計画が見直され、その短期部分にあたる教育環境整備計画が一部修正したことにより、四條畷南中学校は廃校せず、活断層の調査による休校となった。ただし、当初の計画どおりに南中の生徒は転籍となり、現在の畷中・西中の整備事業も老朽化対策の必要性により実施する。また、小学校再編は、畷小の存続を念頭に置いた再編を検討するため、計画が見直されるので、評価をAとする。					
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳				
			国府支出金	地方債	その他	一般財源	
26	20,000 千円	20,000 千円	16,200 千円	0 千円	0 千円	3,800 千円	
27	16,000 千円	11,804 千円	0 千円	0 千円	0 千円	11,804 千円	
28	343,857 千円	343,857 千円	101,425 千円	0 千円	0 千円	242,432 千円	
現状の課題							
四條畷小学校の存続を念頭に置いた今後の小学校再編を検討する必要がある。 四條畷南中学校の活断層調査による休校に伴う課題を整理し、取組みを効果的に周知することが必要である。 四條畷中学校・四條畷西中学校整備事業を進めるために必要な予算確保、関係機関との調整が必要がある。							
今後の取り組み							
今後の小学校の再編整備に向けて、教育環境整備計画に関するアンケートを実施する。 学校との調整や解決に必要な予算化等をふまえ、遅くとも本年10月ごろまでに具体的な対策を見出す。 市長、教育長との情報共有のうえ、広報誌やホームページの他、学校を通じたお知らせ等を行う。 四條畷中学校・四條畷西中学校の円滑な整備を行うため、引き続き関係機関との調整を行う。							

重要項目 15		ひとつづくりは、まちづくりプロジェクト	担当課名
施策目標	(2)	社会教育施設の充実	地域教育課
主要事業	①	社会教育施設整備計画	
年度の目標	平成26年5月に策定した社会教育施設整備計画(素案)に、平成28年度から管理が移管された総合公園と北谷グラウンドの項目、(仮称)正法寺跡公園の活用内容、文化財愛護基金の活用の検討などを追加し、市民が安心して利用し、更なる文化・スポーツの普及・振興を図るとともに、優れた芸術や技術を活かせる施設とするために内容をさらに精査して、整備計画(素案)を策定する。		
計画の概要	現在の社会教育施設整備計画(素案)に施設評価に必要な新たな実績データを追加するなど、さらなる内容を精査するとともに、平成28年度から管理が移管された総合公園と北谷グラウンド、(仮称)正法寺跡公園の活用内容、文化財愛護基金の活用策の検討などについても加え、まちづくり長期計画と整合性を図りながら教育施設の適正配置と再整備に関する年次計画を策定し、社会教育委員会議の審議を経て教育委員会定例会にて報告する。		
活動の実績	社会教育施設整備計画(素案)に新たな項目を追加しながら内容精査を完了する予定であったが、まちづくり長期計画との整合性を密に図ることが必要であることから、年次計画の策定、その後の社会教育委員会議での審議、教育委員会定例会への報告等事項などは延期となった。		
実績の評価	評価の内容		
	上記事業については、市政変化に伴い、他の計画との調整などが遅れ報告事項等が延期となったことから、評価になじまないものとする。		
現状の課題			
社会教育施設整備計画(素案)の内容をさらに精査しながら、まちづくり長期計画との整合性を密に図り、年次計画を早期に策定する必要がある。			
今後の取り組み			
まちづくり長期計画との内容調整を図りながら、追加事項を含めて社会教育施設整備計画(素案)の内容の更なる精査を行い、早期に社会教育施設整備計画(案)として年次計画の策定、社会教育委員会議での審議、教育委員会定例会への報告を行う。			

重要項目 15 ひとつづくりは、まちづくりプロジェクト			担当課名			
施策目標	(3)	教育センターの充実	学校教育課			
主要事業	①	教育センター機能充実(適応指導教室の充実、野外体験活動の実施)				
年度の目標	教育センターの体制を構築及び小中学校との連携を強化する。					
計画の概要	<p>教育センターの機能として、教育研究・研修機能、子ども支援機能を充実させる。教育研究・研修機能としては、大阪府地域福祉・子育て支援交付金を活用し、全校で取り組んでいる授業改善についての研究や発信、教員研修が実施できるよう、ICT環境を整備する。</p> <p>子ども支援機能としては、不登校対策、貧困対策、教育相談、学校支援等を充実させるため、元教員等で構成する教育センタースタッフが定期的な学校訪問を実施するとともに、適応指導教室の適切な運営や専門家の配置に向けた体制整備を行う。</p>					
活動の実績	<p>大阪府地域福祉・子育て支援交付金を活用し、ICT環境整備や専門家の配置等を充実させ、研修機能や教育相談体制を改善した。平成28年度の教育相談件数は224件となり、平成27年度の150件から約倍増した。特に不登校関係の教育相談が、平成27年度の76件から平成28年度の142件に増加している。</p>					
実績の評価		評価の内容				
A		計画どおり達成したとし評価をAとする。				
	予算額	決算額	決算額の財源内訳			
			国府支出金	地方債	その他	一般財源
26	1,472 千円	2,060 千円	2,060 千円	0 千円	0 千円	0 千円
27	637 千円	637 千円	637 千円	0 千円	0 千円	0 千円
28	17,110 千円	13,024 千円	13,024 千円	0 千円	0 千円	0 千円
現状の課題						
<p>不登校や貧困対策など、学校(教員)だけでは対応が困難な課題が増加しているため、段階的に機能充実している教育センターと学校の連携の仕組みづくりが必要である。</p>						
今後の取り組み						
<p>スタッフ会議を通じた事業の進捗管理、スクールソーシャルワーカー等専門家の助言を取り入れた教育相談・適応指導教室の運営プログラム構築等、適応指導教室の組織体制を強化する。</p> <p>巡回指導、ケース会議の実施等、適応指導教室と各小中学校が連携し、学校復帰に向けた個別のプログラムを検討・共有・実践していく。</p> <p>不登校児童生徒の居場所づくりの一環として、野外体験活動を実施し、学校と対象児童生徒を繋げていく。</p> <p>貧困対策において、他部局と連携を行う。</p>						

重要項目 16 その他			担当課			
施策目標		(1) 教育委員会の点検・評価	教育総務課			
主要事業		① 教育委員会点検・評価報告書の作成				
年度の目標	地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条の規定に基づき、教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行状況について、学識経験者の知見を活用し報告書を作成、議会へ提出するとともに市民へ公表する。					
計画の概要	教育委員会で行った主な事業について、各担当課で作成された点検・評価シートを集約し、報告書の素案を作成する。その後、外部評価委員参画による点検評価会議を開催し、外部評価委員の意見や助言等を取りまとめ、素案に反映させて点検評価報告書を完成させる。点検評価報告書を教育委員会定例会へ報告したのち、議会へ提出、市民へ公表する。平成28年度は、昨年度の外部評価委員の指摘事項を確認し、報告書に反映させ、また、用語解説を記載し、市民目線でわかりやすい文章で作成する。					
活動の実績	昨年度に引き続き、点検評価の評価項目は教育振興ビジョンを基本とし、昨年度からの外部評価委員の指摘を受け、点検・評価シートの様式等の変更を行った。平成28年7月に教育委員会の事業に伴う報告書の素案を作成し、外部評価委員に対して事業内容の説明及び点検評価会議を開催したのち、意見や助言等を受けた。その後、点検・評価シートの修正を行い、外部評価委員から助言や評価を得て報告書を完成させ、9月の教育委員会定例会で報告後、議会へ提出、ホームページで公表した。					
実績の評価		評価の内容				
A		点検・評価調査は、市民目線でわかりやすい文章をこころがけ、専門的な言葉には注釈を掲載したこと、また、補足資料を掲載し、数字に関わることは表にし、全体的に見やすくしたこと、さらに各事業の予算額・決算見込額について継続的に点検するため、年度別に掲載したので、A評価とする。				
年度	予算額	決算額	決算額の財源内訳			
			国府支出金	地方債	その他	一般財源
26	30 千円	30 千円	0 千円	0 千円	0 千円	30 千円
27	30 千円	30 千円	0 千円	0 千円	0 千円	30 千円
28	30 千円	30 千円	0 千円	0 千円	0 千円	30 千円
現状の課題						
点検・評価シートをわかりやすくするため、用語解説を記載すること、活動の実績には実施回数や参加人数等、現状を表す数値や推移データといった具体的な根拠を示すこと、市民目線でわかりやすい文章表現とすることが必要である。						
今後の取り組み						
実績には具体的な根拠を付け、数値化できるものは数値化する。また、毎年の点検評価シートを関連付けるために経年変化の数値も掲載する。今後についても、市民を始め報告書を見ていただく方にわかりやすい報告書の作成をめざす。						

